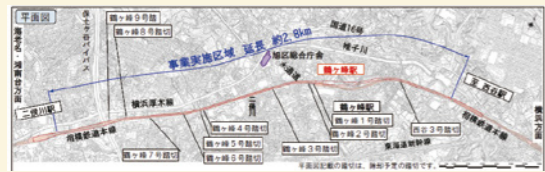


鉄道・地下化後の新たなまちづくり

3月2日の予算特別委員会・都市整備局の局別審査で、相鉄線・鶴ヶ峰駅「地下化」後の街づくりについて質問しました。

Q(大岩質問) 鶴ヶ峰駅を含む延長約3Kmの相模鉄道本線の連続立体交差事業の都市計画が、今年1月に決定し、令和15年度の完成を目指す計画です。駅舎は地下化され鉄道軌道は跡地空間となり、利活用の可能性が生まれます。まちづくりを進める絶好のチャンスです。完了は約10年後の予定ですが、多くの時間があるわけではありません。現状の地区の課題とまちづくりのスケジュールについて伺います。

A(部長回答) 鶴ヶ峰駅北口周辺は、開かずの踏切による交通渋滞の問題のみならず、駅から離れたバスターミナルがわかりづらく、そこに至るまでの歩道整備が十分でないなど、交通安全上、バリアフリー上の課題、さらには、防災上の課題などを抱えています。スケジュールについては、連続立体交差事業の完成時期を見据えますと、令和4年度頃には、まちづくりの協議会から開発事業の準備組合に移行することが、必要となります。



鶴ヶ峰駅は地下化され、踏切は除却。新たな街づくりが始まります。

Q(大岩質問) 鶴ヶ峰駅から旭区の観光拠点であるズーラシアへのアクセスがわかりづらい。これも大きな課題です。新たなまちづくりに、ズーラシアの要素を取り入れるなど、拠点間が連携するアイデアがあるべきだと考えます。この課題に向けた対応について伺います。

A(局長回答) 当地区ではまず権利者の合意形成により進める開発事業により、駅前にふさわしい、安全安心でバリアフリー対応が図られた、都市基盤の再整備を進めることが必要と考えています。ズーラシアへの拠点にふさわしいまちづくりについては、旭区の都市計画マスタープランでも課題となっていますので、地元の皆様の意見を伺いながら、検討していきたいと考えています。



鶴ヶ峰駅まちづくり構想図

Q(大岩質問) 同じく地下化された相鉄線の大和駅。大和市では、「文化創造拠点・シリウス」が、平成28年にオープン。地下化後の鉄道軌道跡地がプロムナードとして活用され、図書館、芸術文化ホール、店舗などが整備され、賑わいが生まれています。他都市の事例を参考にし、

街づくりを考えていくべきです。鉄道軌道跡地を活かした市有地活用の考え方について伺います。

A(局長回答) 今後、地元の協議会や鉄道事業者とともに街の将来像についての意見交換を進めていきます。市有地活用については、他都市の先行事例も参考にしながら、官民が連携して地域のにぎわいを生み出す、効果的な活用方針を、検討していきたいと考えています。



年間300万人超来場する文化施設「シリウス」

小田急線・下北沢駅の地下化後の街づくり

参考事例として小田急線・下北沢駅のまちづくりを調査・視察。都市整備局の質問で、スライド(写真)を使い紹介しました。質問終了後、都市整備局からは、「下北沢の事例を早速視察したい」という言葉を頂きました。



地下化した小田急線「下北沢駅」地上部分は2階建て。2階から地下まで吹き抜け構造に。

鉄道軌道跡地に店舗ができ、飲食できる賑わいスペースが、温泉旅館や保育園も誕生した。

今回のレポートはいかがだったでしょうか?皆様のご意見をお待ちしています。

<送付先>大岩事務所 FAX: 045-442-8002

名前 TEL

住所

立憲民主党 大岩まさかず 横浜市議員(旭区)

日々進化向上する! 市政レポート 2022年3・4月号

大岩 真善和 おおいわまさかず

PROFILE

- 1970年8月3日生まれ
- 中央大学法学部 政治学科卒業(1993年卒)
- 民間企業に17年間勤務(日本リース、三井物産、GEキャピタル)
- 米国公認会計士(US.CPA)合格
- 2019年4月 横浜市議員に当選(3期目)
- 温暖化対策・環境創造・資源循環局(常任委員会)委員
- デジタル化推進特別委員会 委員長



デジタル化「提言書」(21項目)を副市長に提出(2月16日)



2月16日、副市長(CIO)に「提言書」提出

今年度(令和3年度)、デジタル化統括本部が庁内に出来ました。と同時に、議会内に「デジタル化・特別委員会」が立ち上がり、私は委員長を務めました。取り組むべき広範囲な課題の中で、今年度の調査・研究テーマを「行政のペーパーレス・オンライン会議の日常的な利用促進」とし、活動しました。そして、多くの皆様の方でまとめた21項目の「提言書」を、最高情報統括責任者(CIO)の小林副市長に提出しました。

提言に至る経緯

1年間の特別委員会の中で、市職員へのアンケート(7,967人)、シビックテックの民間団体 Code for YOKOHAMA とのディスカッション・意見交換、参考人・森本登志男氏(佐賀県・前CIO)



特別委員会委員と民間団体(Code for YOKOHAMA)との意見交換。オフサイトで行いました。

からの意見聴取、特別委員会メンバーによる活発な議論を経て、提言を21項目にまとめました。

デジタル化実現の課題

技術的問題の解消や投資予算、業務の見直し・改善、制度、組織、

制度改革、サポート体制の構築、組織風土の醸成など、デジタル化の実現には広範囲且つ中長期的な取組が必要です。今までの仕事のやり方、制度を変える事は簡単な事ではありません。ましてや、横浜市のような大きな組織であれば尚更です。

「市民サービスの向上」が最終目標

一筋縄にはいかない問題ばかりです。が、デジタル化による業務効率の向上が「市職員の働き方改革」となり、ひいてはそれが「市民サービスの向上」に繋がります。これを念頭に、この問題に(DX化)に粘り強く、組織的に挑戦する事が重要です。

オープンデータディ2022(3月5日)

3月5日に開催された「国際オープンデータ・ディ2022@横浜」。デジタル化・特別委員会「21項目の提言」の説明をしました。オープンデータディは、世界各国の都市で同日開催したイベント・祭典。横浜での開催は10回目。学生のシビック・テックの提案、横浜市のDX戦略や新設されるデジタル・デザイン室の取組などが紹介されました。



「山中竹春市長」も参加。過去、横浜市立大学・データサイエンス学部・教授の立場で3回登壇している。

予算特別委員会・副委員長

令和4年第一回定例会が1月31日～3月23日まで、52日間の日程で開催。2月24日からの予算特別委員会・第一委員会で、私は副委員長を務めました。



一日置きに開催された第一委員会で、議事進行の役を務めました。

副委員長写真

